

2011.02.09「支離滅裂の答弁、死に体となった菅内閣」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は2月9日です。先程菅内閣になっての初めての党首討論が行われました。菅内閣になって8ヶ月が経ちましたが、この間一度も党首討論行われていませんでした。つまり、今まで菅総理が党首討論から逃げていたわけです。しかし、今回ようやく党首討論が行われました。こちらをご覧になった方もいらっしゃると思いますが、私はこれを見て、菅総理の言い訳だらけの答弁を聞いているだけで気分が悪くなりました。菅総理は「自分達はマニフェスト違反ではない。子ども手当や高速道路の無料化などを実施している。」と強弁されました。しかし、実際にはその財源は赤字国債から出てきています。彼らはマニフェストを実行するための財源は、無駄を無くしたら出てくると言ってきたのに、それがなかったのです。そこで、マニフェスト違反と言われたくないから、赤字国債をどんどん発行するようになって、その結果ますます財政が悪化したわけです。さらに谷垣総裁も触れた、いわゆる年金と税の一体改革は、もちろん進めていかなければなりません。しかし、それには国庫負担の三分の一から二分の一への移行のために2.5兆円の税金が必要とされます。それに毎年1兆円ずつ程度これから負担が増えてくるわけです。それをどうするのか今まで一切議論してこなかったのです。これについても彼らはマニフェストの段階でまともに計算もしないで、消費税によって基礎年金分を月7万円ほど出すこ

とが出来るとのだと発言してきたわけです。ところが今この一元化を実現することが非常に難しいと菅総理も国会で言っています。それを谷垣総裁が「あなた方の言う年金の一元化は難しく、事実上出来ないじゃないかと言っておられます。これも公約違反ですよ。」と正すと、「いや、私は出来ないと言っています。実現することが難しいと言っているだけだ。」と答えるのです。私はこの答弁を見て、もはやこの人は自分達がつくった政策のことすら語ることが出来ないのかと思いました。これから私達は何度も党首討論を要求しようと思っております。しかし、今の状況では開催したとしても、総理がまともに答弁しないし、ましてや自分達がやってきたことや言ってきたことの謬りを認めようとしないのですから話になりません。

そして今日私は早めに第1委員会室に行きましたから、発言者席の真後ろに座っていました。ちょうど全体が見渡せる席だったので、総理のずっと横の方に与謝野大臣がおられて、与謝野大臣の様子も見る事が出来ました。与謝野大臣もさすがにこの答弁を見て、難しい顔をして菅総理を睨んでいました。そして、その後たまたま、第1委員会室を出る時に与謝野大臣と廊下でばったり会いました。与謝野大臣は私も自民党の時によく存じている方ですから、頭だけ下げました。そして、私が「こんな出鱈目を言っていちゃだめですよ。」とお話しました。すると、与謝野大臣は「しかしあんな出鱈目をよく言ってきたよなあ。」と仰っしゃりました。実は与謝野大臣も呆れていたのです。私はそ

んな呆れた人と組む与謝野大臣も呆れた人だと思いますが、ただ一つ与謝野大臣にはっきり申し上げたのは「今度、参議院の予算委員会で与謝野大臣が今仰ったことをそのまま答弁してくださいよ。」と約束してきたわけであります。

いずれに致しましても、もう菅内閣は自分が何を言っているのかも分からないし、彼らの主張は支離滅裂になってきています。「マニフェスト違反をやっていない。」ということに固執するあまり、これから先の議論をしようにも行き詰まって議論ができないのです。そして小沢氏の問題も今日俎上に上がりました。近日中に菅総理が小沢氏に会うそうですが、菅総理がリーダーシップを発揮して速やかに証人喚問をすべきなのです。民主党内でそういう話をすればいいのですけれども、恐らくそれも出来ないでしょう。だから次から次に無責任な発言の積み重ねをしています。このようでは、早晩、支持率は10%をきってしまうでしょう。ですから解散総選挙以外にこの事態を乗り越えることは出来ないと思っております。

そして来月から参議院での審議も始まりますので、私も予算委員会でしっかりと民主党の問題を追及していきたいと思えます。

ありがとうございました。